

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473700449
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院
事業所名	グループホーム 万寿の森
訪問調査日	平成 21 年 2 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 30 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1473700449
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院
事業所名	グループホーム 万寿の森
所在地	神奈川県横浜市青葉区元石川町4323-1 (電話) 045-905-1200

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成21年1月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 1 日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	41 人	常勤 15 人, 非常勤 26 人, 常勤換算	31.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造 準耐火 造り		
	地上2階、地下1階建ての	地下1 階	～ 地上2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000～70,000 円	その他の経費(月額)	34,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(保証金:家賃相当額2ヶ月分、 入居金:家賃相当額2ヶ月分)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4)利用者の概要(平成21年1月25日現在)

利用者人数	36 名	男性	2 名	女性	34 名
要介護1	9 名	要介護2	7 名		
要介護3	15 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	センター北駅前クリニック、横浜総合病院、服部歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ◆周囲は小高い林に囲まれ、四季折々の野菜や果実が栽培されている畑や散策路がある 敷地は5千㎡あり、地域の方々が散歩で訪れている。
- ◆事業所の理念に基づき、全職員が共通認識を持ち、豊かな自然環境の中で、人としての尊厳を重視し、残存能力を活かしたゆったりとした自由でありのままの生活が送れるように、取り組んでいる。
- ◆地域とのかかわりを重視し、地域と共に生きる意義を家族会で話し合い、自治会への参加、地域の子どもの交流、ボランティアの協力、納涼祭や音楽祭に地域の方々を招待するなど、積極的な交流を展開している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では改善点は挙げられていないが、自己評価の気づきで、職員の都合を優先にすることのないよう、利用者の思いを大切に、ゆとりある生活を送れるように支援することの大切さなどを再認識し、日々のサービスに反映させている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から自己評価及び外部評価は、日ごろの業務を省みることで自らの成長を促す好機であると職員に説明して、ユニットごとに全職員で自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	法人が以前から自主的に運営している「青葉福祉学院施設運営委員会」の構成メンバーを基軸に、地域住民の代表者として自治会長・民生委員、地域を管轄する地域包括支援センターの職員を加えることで見直し、理事会の承諾を得て、第1回目の運営推進会議を平成21年4月に開催することに向けて準備している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談や苦情申出ができることと申出窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に本人、家族に説明、また事業所の入口に掲示し、意見箱を設置している。家族の来訪時や家族会では要望や意見等を聞くようにし、月1回開催の家族会役員会及び年1回開催の総会に施設長、管理者が出席して意見交換を行っている。寄せられた要望や意見等は、全職員で対応策を共有し、家族会等を通じて家族に回答するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、老人会の誕生会やバス旅行に参加している。利用者の外出時にはこちらから挨拶をして、親しみを感じてもらえるよう心がけている。地域の幼稚園児や小学生の来訪や、各種ボランティアの協力がある。事業所で開く納涼祭、消防音楽隊による演奏会の際には、地域の方々の招待を恒例化させている。地域と共に生きる意義を家族会でも話し合い、積極的に地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な楽しい雰囲気をつくること」「グループ内での役割をもつこと」「人としての尊厳を重視すること」「ゆったりとした生活ができること」「残存能力を生活の中に生かせること」「自由でありのままの生活ができること」「プライバシーの尊厳を守ること」「買い物や外出など市民生活の継続が出来ること」「自然環境を十分生かした生活であること」「個人にあった適切なサービスを取り入れること」と10項目にわたる理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関先に掲示するとともに、月1回の職員会議や日々の朝礼で話し合い、意識付けを行っている。理念に基づき、自然に恵まれた庭内での散歩を日課とし、利用者一人ひとりの力を活かして役割を担ってもらい、地域との交流を重視しながら、その人らしい生活ができるよう、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人会の誕生会やバス旅行に参加している。利用者の外出時にはこちらから挨拶をして、親しみを感じてもらえるよう心がけている。地域の幼稚園児や小学生の来訪や、各種ボランティアの協力がある。事業所で開く納涼祭、消防音楽隊による演奏会の際には、地域の方々の招待を恒例化させている。地域と共に生きる意義を家族会でも話し合い、積極的に地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から自己評価及び外部評価は、日ごろの業務を省みることから自らの成長を促す好機であると、会議で職員に説明して、ユニットごとに全職員で自己評価に取り組んだ。自己評価結果からの気づきで、職員の都合を優先にすることのないよう、利用者の思いを大切に、ゆとりのある生活を送れるように支援することの大切さなどを再認識し、日々のサービスに反映させている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人が以前から自主的に運営している「青葉福祉学院施設運営委員会」の構成メンバーを基軸に、地域住民の代表者として自治会長・民生委員、地域を管轄する地域包括支援センターの職員を加えることで見直し、理事会の承諾を得て、第1回目の運営推進会議を平成21年4月に開催することに向けて準備している。	○	運営推進会議の確実な開催に向けて準備をすすめるとともに、開催にあたっては、活動状況等を報告し、運営推進会議による評価を受け、必要な要望、助言等を聞く機会となることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは施設長が窓口となり、運営推進会議の立ち上げ、職員の処遇、運営に関する相談などを行い、連携を図り、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットとも、家族会や介護計画の見直し等で家族が来訪した際に、日ごろの様子を伝えるとともに、金銭出納帳にサインをもらい金銭報告をしている。来訪のない家族には、毎月初めに、請求書、金銭出納帳の写しとともに、日ごろの事業所での様子を手紙にまとめ、ケース記録と同封して送付している。また、体調不良等突発的なことがあった時は、その都度電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情申出ができることと申出窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に本人、家族に説明、また事業所の入口に掲示し、意見箱を設置している。家族の来訪時や家族会では要望や意見等を聞くようにし、月1回開催の家族会役員会及び年1回開催の総会に施設長、管理者が出席して意見交換を行っている。寄せられた要望や意見等は、全職員で対応策を共有し、家族会等を通じて家族に回答するなど、改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、各ユニットのホーム長は職員との話し合いを心がけ、職員の悩み等の解消を図り、定着率向上に努めている。異動や退職がある場合には、引き継ぎ期間を充分に取るなどして、利用者への影響を最小限にするよう配慮している。また、職員の異動や退職は、家族会を通じて家族に知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修として、オリエンテーションや、夜間勤務などについてマンツーマンで指導を行っている。月1回開催する職員会議やユニット別のワーカー会議では、介護実技の勉強会も行っている。外部研修は、横浜市福祉保健研修交流センター「ウィリング横浜」の研修案内の受信登録をして、職員に受講を促し、資格取得の際には費用援助を行っている。研修受講後はワーカー会議で報告し、職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の5事業所(グループホーム、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設)で開催する「青葉区北部地域福祉懇談会」を持ち回りで行い、感染症の対応などについて、勉強会を実施している。また、24時間医療や終末期ケアなどについて他の事業所に学び、意見交換や情報交換をしている。その他、利用者の相互訪問で、風船パレーや納涼祭などに参加して交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と一緒に体験訪問をしてもらい、すでに入居している利用者や職員を交えた食事やゲームに参加してもらい、環境や雰囲気馴染めるよう工夫している。管理者や職員による面接を行い、家族と相談の上、本人の意向を確認して、入居を決めてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみ、調理など、本人のできることを手伝ってもらい、昔からの習慣などを教りながら尊敬と感謝の念を持って「ありがとう」の言葉とともに、利用者に喜びを感じてもらえるよう努めている。訪問調査の昼食でも、利用者が食事の盛り付けを手伝ってくれたことに対して、職員が「ありがとう」と感謝の声をかけ、利用者は笑顔でうなづいていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の思いや嗜好、生活上の希望などを、利用者本人、家族から聞き取り、入居後は日々の会話や見守りの中から体調と合わせて本人の意向を把握して記録し、会議等で全職員で共有している。また、表現が難しい利用者には、表情等の観察などから意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入居時に利用者と家族から行ったアセスメントと、日々のケア記録を基に、全職員が参加する会議でプランを立て、家族に開示して要望や意見を聞き取り、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、入居直後の利用者は1ヶ月後、以降は6ヶ月ごとに、家族の意向を確認して、全職員が参加する会議で話し合い、行っている。また、定期的見直し以前に状態の変化があった場合は、随時介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスでイベントがある時は、利用者の希望を募り、参加している。ボランティアの協力を得て、園芸、音楽鑑賞、ダンス、囲碁、書道など様々な余暇活動の支援をしている。訪問理美容、職員の通院介助を家族の要望に応じて支援している。また、介護給付制度(紙おむつなど)の案内をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療を希望する人は、引き続き受診してもらい、必要に応じて家族や医師と連絡を取り、情報を把握している。協力医療機関とは、緊急時に電話で対応してもらっている。転院の希望者には相談に応じて適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、重度化した場合に、事業所で対応できることを家族会総会や個別に説明して、家族、主治医、職員で話し合い、支援する体制としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや声の大きさに注意して、誘導や介護の際にはさりげなく行うことを日ごろから心がけている。利用者の尊厳やプライバシーを損ねるような言動が職員に見られた際は、管理者から指導徹底を図っている。また、個人情報保護については運営規定に守秘義務を謳い、全職員に周知徹底を図り、個人名が記された書類は事務所内の施錠できるロッカーに納めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しいリズムの生活を心がけているが、無理強いすることなく本人の意思を尊重している。毎朝利用者の健康状態を確認するとともに、希望を聞き取り、散歩や趣味に取り組んだり、時には買い物に出かけるなどしている。お酒は量を決め、喫煙は火の管理と喫煙場所を決めた上で、希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人ができることで、一人ひとりの力を活かして職員と一緒に、食事作り、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等をしてもらっている。食事は、利用者と職員が同じテーブルで楽しみながら食べている。基本的には栄養士が作成した献立であるが、時には利用者のリクエストで献立を考えたり、外食も取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日を目安としているが、利用者の生活習慣や体調を見て、回数や時間帯等を柔軟に対応している。季節感を感じてもらえるように、柚子湯や菖蒲湯等も採り入れている。また、ユニット「もみじ棟」の桧風呂を利用する人もいる。入浴を好まない人には無理強いすることなく、声かけを工夫したり、翌日にするなどに対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできることや特技・趣味を活かして、調理、洗濯物たたみ、花の水遣り、習字、社交ダンスなど、役割を担っていただいたり、楽しみを感じてもらいながら、張り合いのある生活を送ってもらえるように支援している。また、お酒、タバコも希望に応じ対応している。お酒は量を決め、タバコは喫煙場所を決めライターの持ち出しができないようにして、火の元の管理に注意した上で支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の体調や気分を考慮しながら、できるだけ多く散歩や買い物に出かけている。また、敷地内の所々に設置している椅子・テーブルセットを利用して、休憩を兼ねた日光浴なども楽しんでいる。時には近くのゴルフ場のクラブハウスへ喫茶、初詣や観梅に出向くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は不審者の侵入と事故防止のため、家族の了解を得て施錠している。居室は本人の意思で施錠することがあるが、万が一の時にはマスターキーで対応することができるようになっている。職員は外出傾向のある利用者を把握し、また別のユニットの建物が確認できるように、各ユニットの「職員コーナー」が配置され、各ユニットの職員相互でも見守りに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規定に、定期的に地域の協力機関等と連携をはかり避難訓練を行うことを明記しており、消防署の指導で、利用者を含めた避難と消火器の扱い、実放水訓練を年2回実施し、地域の方々にも案内をした。緊急時対応手順書、緊急連絡表を整備し、階段下に避難経路を掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事と水分の摂取量は、パソコンを利用して個々に記録している。各ユニットのホーム長、職員、法人の栄養士を交えた給食会議を毎月行い、利用者の好みも含めて食材や調理方法などについて意見交換を行い、栄養士が作る献立に反映している。また、量や形態はその人の咀嚼や嚥下状態に合わせて、刻み、ゼリー状などに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装には木材を使用して落ち着いた雰囲気を醸し出し、廊下、リビング・ダイニング、トイレ等は清潔を保持している。リビングは、吹き抜け天井のガラス張りで採光よく、周囲の林や畑から四季が感じられる造りである。観葉植物を配置し、暖炉もあり、テレビの設置とともに十分な数のソファを置き、くつろげるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「本人の馴染み深いものをお持ちください」と重要事項説明書に謳っている。居室には、ベッド、整理ダンス、机、椅子、手鏡、テレビ、掃除機、ほうきなどが持ち込まれて、写真やぬいぐるみ等も飾られ、それぞれの好みの設えになっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	青葉福祉学院万寿の森
(ユニット名)	みずき棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市 青葉区
記入者名 (管理者)	みずき棟ホーム長 菅谷恵理子
記入日	平成20年12月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	小学生との交流、地域グループボランティアの受け入れ、自治会の日帰り旅行への参加等。施設として音楽祭、納涼祭を実施し地域住民との交流を図っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議において話し合い意識付けを行っている。日々のサービス提供場面において反映できるように努力している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域ボランティアとの交流を継続している。家族とは連携・相談を密にして理解を深めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の敷地内を隣近所の方達が散歩(犬の散歩も含む)したり、保育園の子供たちが遊びに来たりして、利用者、職員共々交流している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会主催のバス旅行、誕生会等に出席出来るように努力している。事業所間の交流を深める為、施設長が会議に出席し、又利用者・職員で風船バレー大会に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	消防音楽隊の演奏会、七夕納涼祭の実施等で地域に役立つよう取り組んでいる。	○	演奏会、納涼祭等を通じて地域の高齢者の方とも更に交流を深めてケアサービスを還元していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設関係者全員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。より良い施設運営を目指している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在、運営推進委員会を設置準備中。	○	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在、運営推進委員会を設置準備中。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡や相談など運営者(施設長)により行われている。	○	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在、運営推進委員会を設置準備中。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度への理解が不足している。	○	権利擁護に関する制度について全員が学ぶ機会を持ち、活用・支援できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について全員が学んではいないが職員1人ひとり意識が高い。事業所内での虐待に注意し防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について全員が学ぶ機会を持つようにしたい。事業所内はもとより利用者の自宅も含めて虐待が見過ごされないように注意し、防止に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約共に十分な説明を行い利用者や家族等の理解・納得を図り、了解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族各々と個別対応して意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。介護相談員の訪問を受け入れている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、ケアプラン更新説明時、家族交流会等において細かく報告している。(ケース記録の提供等)金銭管理については毎月個人の金銭出納帳を提出し家族からサインを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けている。家族からの意見については、運営に反映出来る様に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員意向調査を実施後面談を行っている。又それ以外にも必要に応じて話し合う機会を持っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	厳しい体勢の中で調整に努めている。	○ ゆとりを持ち柔軟な対応が出来る体制作りに努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不安を感じないように配慮して行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加を勧め、実施している。月に一度の職員会議には全職員(パートも含む)の参加を図り、無理な時は後日会議録にて説明している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の福祉施設5ヶ所でネットワークを組み、5社会議を行い、情報交換や勉強会などを行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>心理カウンセラーを紹介し、職員はいつでも個別に相談できる体制が出来ている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者(施設長)は各ユニットを回り、職員や入居者に気軽に声を掛けて個々とコミュニケーションをとる時間を設けている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>個別対応により行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話しやすい環境作り(挨拶、笑顔、声かけ等)を心がけ、ゆっくり話せるように努める。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意見をよく聞き必要としている支援を迅速に行えるよう努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と共に徐々に会話や生活体験を通じて安心感を持っていただき、馴染めるように工夫する。職員も見守り重視し、必要に応じて援助していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人を人生の先輩、経験者として学び互いに支えあう関係を築いていくように努めている。生活を共にして信頼関係を高めていくように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会、誕生会等各種行事や面会等を通して親睦を深め話し合い、良い関係を築く。一緒に本人を支えていくよう努めている。(家族と合同での外出・外食、散歩の付き添い、一緒に合唱する等)		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係の理解に努めた上で現在の状況をよく話し本人への一層の理解が深まるように支援に努めている。(面会時、ケアプラン説明時、受診時等)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪を歓迎し、再度来訪して頂けるような声かけや支援を行う(笑顔の挨拶、湯茶の接待、面会簿への記入等)。電話、手紙等で連絡を取り持ち関係が途切れないように配慮する(本人や家族からの依頼ある場合)。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者1人ひとりの個性や性格等を把握・理解して日々の生活の中で支えあい、助け合えるように声かけし、さりげなく援助する。レクリエーション、家事、散歩等を通じて関わり合いを深められるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	訪問したり、連絡したりして交流を続け、関係を維持出来るように努める。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通して一人ひとりの希望、意向の把握に努め改善出来るようにする。困難な場合は本人本位に検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに記録し職員がいつでも見れるようにしている。又、家族との対話を通してこれまでの暮らしの把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの個人情報情報を参考にしながら現在の日々の生活状況を観察して現状を把握するように努めている。個人個人のその人らしい生活リズムを把握し、理解するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。職員会議において全職員と話し合い介護計画の徹底を図っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度見直しを行い、必要な場合は現状に即した計画を作成する。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日2回(日中、夜間)の様子を業務日誌、ケース入力等記録して情報を共有し、把握している。実践に活かし、介護計画の見直しにも利用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本院や家族の要望に応じてデイサービスの利用も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティア、小学生、中学生との交流。消防音楽隊の来訪等協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在行っていない。	○	必要な際には支援できるよう対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例の利用者の問題点について、以前活用していたサービス担当者から情報を得るなどしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と必要に応じて連絡を摂り、情報を共有する。家族ともその都度連絡して情報交換する。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	長期的に安定した生活が出来るように今後協働していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重した上で誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや誘導を行い支援している。個人情報施錠出来る場所に保管の上守秘義務遵守。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	声掛けに努め、本人のペースに合わせて表出のきっかけを待つように心がけている。自発性、主体性を促して自己決定を支援している。明るく、楽しい雰囲気作りを行なっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが送れるように支援している。本人や家族から情報収集して個人を依り良く知り、希望に副えるよう努めている。職員が情報を共有するように勤めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に本人の意思にまかせてさり気なく支援出来るようにしている。本人の選択に対して賛同している。美容は施設内に2ヶ月に1回馴染みの美容師が来て実施している。希望者は家族と外部の美容室に出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力と興味に応じて、職員と共に準備や片付けを行なっている。調理も一緒に行い、本人と職員全員が同じものを食べている。支援が必要な時はさり気なく行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日本人の飲み物、おやつ等を通して本人の嗜好を優先させている。本人の体調、健康状態に留意して支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者各々の排泄パターン、習慣を把握している。排泄チェック表等を活用して適切な排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルやその時の心身の状況を把握して入浴の声掛けを行っている。本人の希望に副う入浴を提供し楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々状態を把握(申し送り、記録等)しながら支援している。本人のリズムで就寝し、日中の休息も充分取れるように支援している(居室、リビングソファ等)。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来る力、持てる力を活かして園芸、編み物、社交ダンス、歌、書道、体操等趣味・娯楽の支援をしている。日々の家事作業(洗濯物干し・畳み、調理等食事の下準備、食器拭き・収納等)等を通じて役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいと希望される方には家族と相談の上で対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各人のその日の体調や希望に副って戸外に出れるように支援している。職員同伴の外出、散歩、買い物等外出支援を行っている。本人、家族の希望での外出も積極的に支援している。地域交流での外出も支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を取り入れた行事(初詣、お花見等)を計画し実行出来るように努めている。個別に家族と共に外食や喫茶に行ったり、家族交流会で他入居者や家族と共に出かけられる機会を作り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話できる場合、または本人の要望で職員がかかる場合共に支援している。手紙の受け渡しや希望があれば投函も支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人等馴染みの人の訪問にた対してはいつでも歓迎の態勢で応じている。入居者と共に訪問を楽しみ、レクと一緒に参加等自由に居心地良く過ごせるように支援している。本人と一緒に茶菓も楽しんでいただくように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束の無い、又しないケアを実施。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解する為の勉強会を設ける。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアに取り組んでいる為居室の鍵は掛けてない。但し、夜間入居者が自分で施錠している部屋もあり見守り行なう。玄関の鍵は不審者の侵入、及び事故防止の為に施錠している。出来る限り開放的な生活を支援するように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の生活パターン、習慣を把握して(見守り、声掛け)を行い所在の確認に努め、安全を図っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品(ライター、マッチ、刃物類等)は職員が保管・管理し要求に応じて使用。その際近くで見守り行き安全に留意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人1人の身体的状況と事故発生を常に意識して、職員間で情報交換し家族の協力も得ながら防止に努めている。	○	事故防止の為の更なる学習の必要性あり。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に受けていない。	○	急変や事故発生時の応急手当や初期対応の具体的な訓練を定期的に行なう。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練、マニュアルを作り対応している(防災訓練・年2回実施)		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と充分に話し合い、本人の負担を出来るだけ取り除いてその人らしい生活を大事にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを実施、食欲、睡眠状態の把握。顔色、挙動等で変化や異変の発見に努める。異変時はホーム長に連絡・報告、家族と話し合っって対応している。速やかに情報を共有し対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容を確認し、変化の有るときはすぐに記録し、報告行い確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスの取れた食事の提供と適度な運動の実施。排泄記録とチェックを行い症状があれば対応する。(毎朝の牛乳、ヤクルトの摂取、食物繊維の多い副菜等)、排泄時のマッサージの実施。心理的、精神的な要因があれば解消に努める。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアの実施・励行支援。こまめな水分の補給を支援。就寝時は義歯を外して消毒後保管実施。希望者、必要者には訪問歯科による口腔ケア・受診の実施を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を各食事記録し1人ひとりの状態を把握して支援に結び付けている。摂取時の状況を観察し声掛けして体調の保持に努めている。(摂取時間を要する人、混ぜ込み見られる人、食欲不振時等)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の手洗い、消毒の実施。(利用者、職員共に励行)。戸外から帰棟したときのうがい、手洗いの励行。入浴時肝炎のキャリアの人(完治)は念のため入浴実施後浴槽の湯を交換し掃除実施して感染予防に努めている。食事時は消毒済みのおしぼりを使用して支援している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒を毎回実施して食中毒を予防している。毎日シンクの消毒実施、衛生と保全に努めている。食材の衛生管理の実施。衛生チェック表に基づく自己管理の徹底を図る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ボランティアや職員による玄関、建物周りの四季の草花の花壇や植え込み、明るく、開放的な敷地により親しみやすく、安心な玄関・建物周囲の工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は建物の構造的な特徴をいかして自然の採光に溢れている。目の前に林や畑が広がり、居ながらにして味わえる自然と季節感ある。また、毎日の掃除で清潔に保ち居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各種雑誌や本を揃えたり、テレビを見たり、新聞を読んだり、写真集を見たり人形を抱いたりと本人の自由に任せている。又、ソファや居室で1人で過ごしたり、他入居者と会話したり歌ったり等各々主体的に楽しめるような居場所の配慮に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意向を尊重して希望の品物、家具、家族の写真、ぬいぐるみ、本等自由に設置して気分の安定を図り気持ちよく過ごせるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日々、特に天気の良い日には積極的に外気を取り入れて部屋の換気に努めている。利用者の状況・体調に応じて外気との温度差等考慮して温度調節に配慮して居る。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りや声掛けに寄って各人の状況に応じて自主的に行動が『起こせるように工夫している。一―手すり、肘掛つき椅子、足上げ機能つきソファ、エレベーター、車椅子、歩行器、杖等の使用)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアプランや毎日の生活から認識できる本人の分かる力の把握に努める。自尊心に配慮しながらさり気ない支援で自主性を引き出し自立して暮らせるように工夫し支援する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸活動の実施(利用者、ボランティア、職員は家族とも一緒になって花を植えたり、水遣りを実施)。成長を楽しみ、喜びを感じてもらいながら活動出来るように活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者各々の生活のリズムを大切にして1人1人の個性を尊重しながら一つの輪となって暮らせるように努力しています。決して押し付けではない、言葉による「コミュニケーション」以外の触れ合いが存在する事を信じて対応していきたいと思っています。介護者の価値観で行動しないように自分を律して、尊敬し、敬う高齢者として利用者と毎日とともに生きて行きたいと考えています。ゆっくり、ゆったりがモットーのみずき棟です。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	青葉福祉学院 万寿の森
(ユニット名)	さくら棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市 青葉区
記入者名 (管理者)	さくら棟ホーム長 田代 和夫
記入日	平成 20年 12月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域の自治会に参加したり、自治会の企画するバス旅行などにも参加している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎月の会議の中で話し合いの場を設けている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族交流会や社交ダンス、園芸活動などの行事を通して参加を呼びかけ、理念に応じたケアを実際見ていただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	収穫祭や納涼祭などの行事を企画し、地域住民を招待している。敷地内の散策路を地域住民が気軽に散歩を楽しんだり、保育園児が遊びに来るなど、入居者や職員も一緒に交流している。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会が企画する誕生日会やバス旅行に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	消防音楽隊による演奏会や餅つきなどのイベントの実施で、地域に役立てるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義について会議で説明し協力し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在、運営推進委員会を設置準備中。	○	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在、運営推進委員会を設置準備中。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡や相談など運営者(施設長)により行われている。	○	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在、運営推進委員会を設置準備中。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会があり、職員間で学びあった。	○	成年後見人制度を活用した入居者がいた。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律そのものを学んでいないが、新聞などで報道された事例について朝礼などで話し互いに注意を払っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に契約内容について読み合わせを行い、疑問点があればしっかりと説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情があれば、その都度対応し職員間で統一認識となるように勤めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お預かりしたお小遣いはお小遣帳に作成し、説明行いサインを頂いている。また、面会の都度に近況報告行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にも苦情受付窓口について記載している。また、家族会があり、ご家族のご意見を頂いている。」	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長会議や全体会議などで意見や提案を取り入れて頂いている。職員意向調査を実施し、その後面談を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月のミーティングで勤務内容などについて話し合いの場を設けている。また、勤務を組む時点で組み合わせや無理が出ないよう工夫している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不安を感じないように配慮して行っている。	○ 職員の定着を良くする為の環境作りを行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会の案内をして下さり、研修を進めてくださる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設5ヵ所ネットワークを組み、5施設会を設け勉強会などをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心理カウンセラーを採用しており、職員はいつでも相談できる体制ができている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各棟を見に来て下さり、職員に声を掛け、個々の努力を労って下さる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度も面談を行い、不安を無くすようお話を聴き信頼関係を築いている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者と同じように何度も面談を行い、電話などでも対応して不安を受止めるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかりと見極め、他のサービスの説明を行った りしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に万全の準備を行うのはもちろん、面談にきて際におやつ の時間や余暇活動の時間を共にし馴れて頂くように勤めて いる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが ら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	日常生活(掃除や洗濯など)で共に協力し合い、昔話や昔の 人の知恵などを聞かせてもらいながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を 共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族交流会を行い、共に企画し行っている。また、 他の行事にもお誘いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係 が築いていけるように支援している	気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、近況 報告をこまめに行い話す機会を作るようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が 途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を仰ぎ、出掛けて行ったり出来るように勤めて いる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者 同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席を工夫したり、職員が橋渡しをするなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙のやり取りを行ったり、行事にお誘いし案内を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話し方など各利用者の応じて対応している。出来る限り希望に添えるよう努めているが共同生活のルールなど管理的になってしまうこともある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のフェイスシート等をケースファイルに綴じており、職員はいつでも見れるようになっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌や連絡ノートを活用し、職員間で統一理解を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族に希望などを聴き介護計画を立てる際に反映できるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間以前であっても、状況の変化に応じその都度介護計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送り、連絡ノートを活用し、職員間で統一理解を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各々の状況に合わせて、介護保険サービスの案内などを行っている。	○	紙おむつ介護給付制度など活用している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア団体の方が訪問して下さる。	○	本人の希望によりボランティアの方にお琴を習っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在行っていない	○	必要な際には支援できるよう対応していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例の利用者の問題点について、以前活用していたサービス担当者から情報を得るなどしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当の医師と電話などで連携を取り、情報を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	長期的に安定した生活が出来るように、今後協働していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>記録や個人情報は利用者の目の届かないところに保管している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>掃除や洗濯、調理、洗い物などそれぞれの利用者にあつたお手伝いをお願いしている。また、自らお手伝いを申し出てくださったときには、出来る限りお願いしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>日々のスケジュールに沿ってしまいがちであるが、余暇活動の内容を利用者と共に決めたり出来るようにしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>美容師のボランティアが来て下さり、利用者の要望に応じてカットや毛染めを行っている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>調理を手伝っていただく際に、使用するメニューにを伝え野菜の切り方など自由に行って頂いている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつなど利用者各々の嗜好に合わせてお出ししている。</p>	○	月に一度、買い物の機会をつくり各々の嗜好品を購入して頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間やパターンを記録して把握し、声掛けを行うことで失敗を未然に防ぎ気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間の都合になってしまいがちだが、拒否が見られた際には無理をせず入浴を止める。	○	アロマ風呂や菖蒲湯、柚子風呂など工夫し、入浴を楽しんでいただけるようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の中で活動時間と休息時間を設けている。メリハリをつけたスケジュールを組むことで昼夜逆転しないよう心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般(掃除や洗濯、調理など)を利用者に合わせた役割をして頂いている。また、手芸や書道などを行い利用者同士で成果を話し合える場を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一度、買い物に出かけ職員付き添いのもと会計をして頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は戸外で散歩や体操、歌などの活動を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度は外出の機会を設け、どこに行きたいかを募るようにしている。また、利用者の意向をご家族に伝え協力を仰いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは職員がつなぎを取り利用して頂いている。ご家族にも年賀状や暑中見舞いなどを作成し郵送している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように面会時間は自由である。簡易ベットを利用して宿泊していただくことも出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について月に一度の会議で話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠しておらず、解放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所とリビングは繋がっており、常に見守りが可能である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物などは職員が管理しているが、職員と共に調理するときなどは見守りのもと自由に使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月に一度の会議で想定しうる事故について話している。また、事故防止マニュアルを共有して統一理解を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故防止マニュアルを活用し、また緊急対策マニュアルも共有している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署に協力を仰ぎ、消防訓練(年2回)を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時など話し機会を逃さず、近況報告を常に行い、またリスクについても話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異常があれば申し送りで情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員が共有し作用や用法・用量について共通理解している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味な利用者に対し、水分摂取や運動を促している。	○	ご家族に相談し、センナ茶やサプリメントを活用している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔洗浄を促し、必要に応じて見守りや介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したメニューに沿っている。摂取量を記録し把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを職員が共有している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理点検日誌をつけており、感染症予防している。また、毎日、除菌を行い、清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口は常に季節の花が咲いており、開放的になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けのガラス張りになっており、開放的である。また、テラスには季節の花が咲いており心地よく生活できるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階の廊下にソファを設置しており、自由に活用できるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力を仰ぎ馴染みのものを持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日には毎日、換気を行っている。また、温度調節にも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の身体機能に合わせて家具などを工夫している。	○	食卓椅子が低く過ぎないようにクッションを使用したり、活動時に暗くならないように照明を増やすなどしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各々の身体機能に合わせて日常生活で役割を作り、職員が共に行うことで失敗を避け自信に繋がるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングからテラスにいつでも出られるようになっている。また、テラスに長いすを配置し憩えるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

4ユニットの中で、一番開放感のある建物になっています。コンサートや社交ダンスでは、各ユニットから入居者の皆さんが参加され賑やかな交流の場所になっています。毎日の生活を個々のペースで楽しめるよう、入居者の皆さんと職員一同で協力し合いながら過ごしています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	万寿の森
(ユニット名)	ぼたん棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市 青葉区
記入者名 (管理者)	ぼたん棟ホーム長 貴島宏一
記入日	平成 20 年 12 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の小学生や幼稚園児との交流、地元ボランティアの受け入れ、自治会主催のバス旅行や誕生会へ参加している。敷地内の畑や散策路を活用し、ゆっくりとその人らしい生活が出来るよう支援する事を意識した理念になっている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や、日々の業務の中で話し合い意識付けを図っている。毎日のサービス提供の場面において行われるよう努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約時や見学、入居相談の時に説明をしている。また、家族交流会や年行事(収穫祭や納涼祭等)、ボランティアとの交流などを通じて、理念に応じた日々の様子を実際に見ていただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設敷地内の散策路や芝生広場は、地域住民が自然に散歩や寛げる環境になっている。犬を散歩している方や、近くの保育園児たちも遊びに来ており、入居者や職員は自然な形で交流している。また、職員は敷地内ですれ違う地域の方に必ず挨拶をするよう徹底している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生や幼稚園児との交流、地元ボランティアの受け入れ、自治会主催のバス旅行や誕生会へ参加している。小学校から運動会の招待や近隣の福祉施設で行われる風船バレー大会への参加など入居者の皆さんが楽しみにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	納涼祭や消防音楽隊の演奏会などを通じて、地域住民の皆さんと交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について職員全員で自己評価に取り組み、内容を活かした日々のケアに繋がるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前から設置されている「青葉福祉運営委員会」を見直し、現在運営推進委員会の設置準備中。	○	全体会議やホーム長会議、ユニット毎のワーカー会議などで日々のサービスの質向上に努めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡や相談など運営者(施設長)により行われている。	○	以前から設置されている「青葉福祉運営委員会」を見直し、現在運営推進委員会の設置準備中。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は講習会で学ぶ機会があり、また、入居家族から実際に成年後見制度についての相談・手続きを受けた事がある。管理者は、見学者や相談者、または家族等へ必要と思われた際には制度の活用について説明している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間にて、入居者の心身状況の把握に努めており、入居者同士のトラブルを未然に防ぐよう努めている。また、新聞や報道された事例を用いて、朝礼時に運営者(施設長)からの話を聞くことで注意を払い徹底するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の施設見学時から、施設のメリット・デメリットを説明している。また、家族がどのようなケア・生活を望んでいるのかを十分に聞き、契約時には契約内容の読み合わせを行っている。契約までに繰り返し疑問点について伺い対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、ホーム長が窓口となり、入居者本人や家族から個々に意見や苦情を聞く機会を設けている。また、職員間でその都度話し合い問題解決に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求時に、「ぼたんたより」「月間行事予定表」「お小遣い出納長」のコピーを一緒に送付している。また、面会時や必要な時は電話連絡など、入居者の状況に合わせてその都度報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口が記載されている。また、「家族の会」が設けられており、ユニット毎の代表者の集まりに管理者も参加して意見交換が出来る場が設けられている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やホーム長会議等で、意見や提案を検討したり取り入れたりしている。また、職員意向調査を実施して、個別面談も行われている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に合わせて、職員間で話し合いながら業務の流れや内容を変更している。行事や受診など、事前に分かっている予定には対応できるよう職員の人数調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や各ユニットのホーム長から現場の声を拾って対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>講習や研修の機会を設けている。また、新職員や異動時には、マンツーマンで業務指導を行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の福祉施設(5社)で集まり、情報交換や勉強会を定期的に行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>心理カウンセラーを紹介しており、職員はいつでも個別に相談できる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者(施設長)は現場の様子を把握し、自ら現場に出向いて職員の話をしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の事前調査におけるフェイスシートを素に、個別に係る機会を重視して、十分にコミュニケーションをとるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>気軽に来棟できる環境・雰囲気作りに努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で話し合い対応している。必要に応じて、運営者(施設長)・管理者を交えて、入居者や家族にとって必要な支援が出来るよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の心身状態に合わせたサービス提供を行うことを徹底している。	○	入居前に「散歩」「見学」として、家族と一緒に遊びに来て頂き、一緒にレクリエーションを楽しんだり、食事やお茶と一緒に摂る事で不安が軽減されるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の出来る身体能力を活かした日常生活を過ごしている。本人が自分の「仕事」と認識して取り組もうとすることは、無理のない範囲で行ってもらっている。また、職員の方から「お願い」することで、個々に合わせた達成感や充実感が得られるよう工夫している。	○	洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭き、植物の水遣り、中庭の掃き掃除、食事作りなど、自主的に行えるような環境セッティングをしている。食事の盛り付けや洗濯物のたたみ方など、様々な場面で入居者の皆さんからアドバイスを受けている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や各行事や余暇活動への参加・協力をして頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とこまめに連絡をとるよう努めている(ご本人の細かな変化)。必要物品の購入、受診対応など協力していただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を依頼して対応していただいている。	○	友人・知人の来棟支援や外出などを楽しんでいる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者同士で散歩に誘ってみたり、職員が間に入ることで一緒に楽しめるレクリエーションを工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事等のお知らせや電話などで連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の入居者に合わせた対応に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にフェイスシート(4枚)を作成してもらってる。また、それをベースに、本人の生活状況の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に個別を意識したかわりを持つ事で、本人のペースを把握している。また、職員が其々持つ情報は、連絡ノートや業務日誌、ケースに記録して統一した把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に希望を聞いている。また、日頃から聞かれる言葉や訴えの中からニーズを拾い、職員間で話し合いながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身状況の変化に応じて見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、「業務日誌」「ケース」「排泄チェック表」などを記入している。また、日々の細かい変化や対応などを「職員連絡ノート」に随時記録し、個別対応と統一ケアに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族に希望を聞いて対応している。	○	介護給付制度(紙おむつなど)を利用している。デイサービスでイベントが行われる時には、希望者を募り皆で遊びに行く事がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地域ボランティアの訪問がある。地元消防署の協力の下防災訓練(年2回)を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在行っていない	○	必要な際には支援できるよう対応したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例の入居者からの問題点などについて、以前活用していたサービス担当者から情報を得るなどしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の他に、家族の希望や本人の状態に応じて他の医療機関を利用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	長期的に安定した生活が出来るよう、今後協働していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々を尊重した対応を心がけている。個人情報施錠可能なキャビネットに保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	細かい事でも本人に声掛けし選択できるよう努めている。個々に合わせた言葉を選んで対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にゆったりと生活できる様支援している。無理強いせず、ある程度の生活リズムを維持しながら、楽しく毎日過ごせるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の能力に合わせて対応している。声掛け対応にて自分で洋服等選択できるよう支援している。希望者は2ヶ月に1回の美容(ヘアカット)を利用できる。家族と一緒に馴染みの美容室にでかける方もいる。	○ 外出前に自主的にお化粧品(口紅・マニキュア)を楽しんでいる。就寝前にはカーラーを巻いたり化粧水をつけるなど、個々の生活習慣が活かされている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな方には、一緒にエプロンをつけて調理に参加できる支援を行っている。食器拭きなどは自主的に参加して、ほぼ毎回手伝っていただいている。月に1回お楽しみのメニューを作り、入居者と一緒にメニューを考える事もある。	○ 入居者の希望を取って、出前や外食も行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に沿って、家族と相談の上で対応している。おやつは入居者と一緒に買いに出掛けたり、その日のメニューを考慮しつつ楽しめるよう工夫している。	○ 1日2回、本人の希望で飲酒を楽しんでいる方もいる。就寝前に他入居者と楽しく一緒に飲むこともある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。定時や状況に合わせてのトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックを把握し声掛けしている。基本的に毎日行っており、個々の好む時間帯に出来るだけ声掛けし対応している。	○	アロマオイルを使用したり、季節で入浴を楽しめるよう工夫している。(柚子湯、菖蒲湯など)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	記録などから個々の状態を把握し支援している。1日の中で本人が休める時間を大切に援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が希望したり、自主的に取り組もうとする活動(家事全般、園芸、作業、音楽、社交ダンスなど)を抑制することなく行えるように支援している。	○	単独で散歩に行くこともある(職員が見守り対応)。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせ、買い物の際ご本人に支払いをお願いすることもある。家族と相談し、希望される方には金額を把握した上で所持している方もいる。	○	散歩中に買い物される方もいる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には、出来るだけ外出を取り入れている。日中、2回3回と希望者に合わせて散歩をすることもある。そのまま近くの店で買い物をすることも随時行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て自治会のバス旅行への参加を支援したり、季節でドライブ等を楽しめる機会を工夫している(お花見、水族館、観劇など)。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	隣のユニットに公衆電話があり、入居者が自由にかけることができる。手紙やハガキなどの投函も支援している。	○	電話を掛けたいときに、単独で隣へ出掛ける事ができる(職員見守り対応)。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間帯は決めておらず、常識の範囲内で自由に訪問できるよう対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアが当たり前として認識され実行されている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件や入居者の安全を考慮し、家族の了承を得て施錠しているところがある。	○	玄関は基本的に施錠しているが、リビングからは自由に入出入りが出来る。また、居室のサッシは自由に開閉できる為、テラスへは自由に入出入りが可能である。中庭からは隣のユニットへ自由に行き来が可能である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングとカウンター前に職員が居る様にしている。常に個々の入居者の行動を意識しながら業務に当たっている。職員同士声掛けしながら、随時入居者の所在確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力や状況に合わせ、職員間で検討しながら対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ワーカー会議で話しあったり、必要な場面に遭遇した時など、随時職員間で話し合いながら検討し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練の際、心肺蘇生法や応急処置などの講習を受けている。また、「事故防止マニュアル」を共有している。	○	定期的に講習を受ける必要を感じている。実際に現場に直面した時、全ての職員が的確・迅速に対応できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力の下、定期的に避難訓練(年2回)を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ユニットの状態、敷地の状況、ご本人の身体的精神的な状態変化などから起こり得るリスクについて、入居前・入居後にも随時説明し、また家族にも協力を仰ぎながらご本人が穏やかで安全な生活が出来るよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。変化がみられた時は、業務日誌、ケース等に記録し、引継ぎ時に口頭で申し送る事で情報を共有し迅速な対応が出来るよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルし、職員全員が処方内容を把握できるようにしている。服薬チェック表を活用し、確実な服薬援助を行えるよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便サイクルを把握している。個々の体質に合わせた排泄援助(運動、食事・水分摂取量の把握、マッサージなど)を行っている。場合により薬での調節を行っている。	○	家族と相談し、センナ茶やノンジュースなどで対応している方もいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛けを行っている。就寝前には入歯を管理して対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は個々に記録し把握している。食事内容は栄養士によって管理されている。また、個々の咀嚼や嚥下能力に合わせて、とろみを付けたり、キザミ食・ミキサー食など形態を工夫して摂取を促す工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを職員間で共有している。外出後、食事前の手洗い・消毒の実施をしている。次亜塩素酸ナトリウムを使用して清掃を行っている。必要な場合は、家族や来棟者に協力を仰ぎ、棟内に入る際マスクと手洗い・うがいを行ってもらおうようお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒を毎回実施している。衛生チェック表を活用し食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植物や動物の置物を飾ったり、落ち着いた雰囲気づくりに努めている。ボランティアや家族によるプランターや中庭の花の手入れなどが行われている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りで天井が適度に高く、開放感と柔らかい自然の光が活かされるつくりになっている。目の前の畑には季節の野菜や木の実などがあり、建物内からでも大きなガラス越しに自然の変化を楽しむことができる。	○	栗や柿の季節には、散歩の途中で拾って楽しむ方もいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物内の至るところに、ソファや椅子が置かれている。其々の時間を好きな場所で好きな相手と過ごすことができる工夫がなされている。テラスへも自由で入り出来るので、外を眺めたり中庭のベンチで寛ぐ事も可能である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明や入居のしおりに記載されている。どんなに古くて汚れていても、本人が愛用して馴れ親しんでいるものを持ってきて頂く様に説明している。レイアウトできる範疇で、ご本人の部屋を引越するイメージでお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い日はサッシを空けて換気に気をつけている。エアコンや暖炉を使用する場合は、入居者の体温調節を考慮し、常に適温を心がけて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、声掛けや見守りを行いながら出来るだけ自力で行動できるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が意識できる工夫をしている(時計やカレンダーの位置、日記の記入や掃除道具の置き場所など)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員が声を掛けることで、テラスに布団を干して自主的に時間を見て取り込む姿が見られている。また、自分で洗った洗濯物をテラスに干して管理している。自主的に中庭の掃き掃除をしたり、他入居者数人と一緒に、テラスのベンチで談笑する姿がみられている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりとした空間の建物で、リビングに居ながら季節の移り変わりを満喫できる立地条件の中で生活しています。日常の中で「出来る能力」「やりたい気持ち」を抑制することなく、入居者一人ひとりが「自然な日常生活」を楽しみながら営む事ができるよう、職員一同で「お手伝い」をさせていただいています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	青葉福祉学院 万寿の森
(ユニット名)	もみじ棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市青葉区
記入者名 (管理者)	深澤 賢司
記入日	平成 20年 12月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	普段から散歩などで会ったときなどに話すことが多い畑の方から野菜を頂く事もある。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	納涼祭や消防音楽隊の演奏会などの実施で、地域への貢献に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を説明し、課題については会議で話しあっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在運営推進委員会を設置準備中。	○	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在運営推進委員会を設置準備中。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡や相談など運営者(施設長)により行われている。	○	以前から設置されている「青葉福祉施設運営委員会」を見直し、現在運営推進委員会を設置準備中。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は講習会等で学ぶ機会があり、必要な家族や相談者への説明や活用への支援を行っているが、職員では学ぶ機会を持つ必要性がない場面が多い。	○	制度を学ぶ機会を設け、活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に学ぶ機会を設けてはいないが、新聞やマスコミを通じて知った事例については、朝礼や職員間で話しあい、注意を払い徹底して防止している。	○	学ぶ機会を設け、更に意識を高めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約共に内容を明確に説明し、利用者、家族の理解・納得ができた上での了解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明を定期的実施している。苦情や不満などにはすぐに話しあい、対処できるよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話の他、毎月もみじ便りを発行し、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、月に一回は役員が集まる会議には管理者が出席している。また家族会作成による「家族会たより」が発行されている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長会議や全体会議のほか、年に一度意向調査を実施し、面談を行なっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要最低限の職員を確保し、勤務を組む際にも、無理のないよう工夫し、調整している。	○ 求人募集にて更に職員の確保に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や各ユニットのホーム長から現場の声を拾って対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が平等に研修に参加できるよう配慮されている。研修での内容は会議や資料によって報告でき、情報を共有できている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設5ヶ所で集まり、勉強会を開催している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心理カウンセラーを紹介しており、職員はいつでも個別に相談できる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者(施設長)は、現場の様子を把握し、自ら出向いて職員の話しを聞いている。	○ 年に1回は昇給制度が設けられている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個別対応を重視し、じっくり話す機会を設けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や電話などでこちらから働きかけ、話やすい環境作りに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員で話し合い、本人と家族が必要としていることに対してできることはすぐに実行し、難しいことに対しても対策を考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意見を考慮して部屋を決めたり、見学に来た際に、活動やおやつ時間を共にすることで少しずつ馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のペース、意志を尊重しながら、日常生活を通じてゆっくりと信頼関係を築くように図っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を共に企画し行なったり、他の行事へ誘い協力していただいている。また、こちらから働きかけお互いに相談しながら一緒に支援をしていくよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	こまめに家族と連絡をとり、必要物品の購入や受診の依頼など協力を仰いでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を依頼し、外出できるよう努めたり、友人の面会等自由にできる。	○	公衆電話があり、自由に電話できるようになっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席を工夫している。また、職員が介入し、活動や日常生活の場においても円滑に交流が図れるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙のやりとりを行ったり、行事に誘っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に応じた話し方や対応を職員間で統一するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録に残し、職員間でいつでも情報を共有できるようにケースファイルに閉じてある。また、気付いたことなど家族と情報交換し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や連絡ノート、業務日誌を活用し、職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に希望を聞き、介護計画を作成する際、意見を取り入れ承認をえている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じ必要なときは、その都度介護計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録、連絡ノートを活用し、職員間で情報の共有を図り、統一した対応に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の状態に合わせて、介護保険サービスの案内を行なっている。	○	介護給付制度(紙おむつなど)を利用している。デイサービスでイベントが行われる時には、希望者を募り皆で遊びに行く事がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地域ボランティアの方の訪問がある。また消防署の協力のもと、防災訓練(年2回)を実施している。	○	本人の要望にあわせ、ボランティアによる傾聴や囲碁、編物などに参加できる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在行っていない	○	必要な際には支援できるよう対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例の入居者からの問題点などについて、以前活用していたサービス担当者から情報を得るなどしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関があるが、家族の事情や希望に応じて、他の医療機関を利用できる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	ケアワーカーのいる歯科医の往診が受けられる。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	職員間で利用者の状態や既往歴を普段から知っているが、看護師の確保はできていない。	○ 気軽に相談できる看護師を確保したい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	早期退院できるよう、医療機関と連携をとり、その状況に伴って施設側も受け入れできる体勢を整え、備えている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	本人の状態を見ながら、医師やご家族との話し合いを繰り返し、できる限り希望に添えるよう努めている。	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	本人の状態、意志を第一としながらも、施設での出来る範囲も踏まえたうえでご家族、医師と相談し、出来る限りの対応に努めている。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	介護記録やサマリーを作成し、ご家族や移り住む場所へ情報を提供、相談に応じている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷付けないよう声掛けや対応に十分に注意をはらっている。また、個人情報には鍵の掛かる場所に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中から、関心ごと等の把握に努め、個々の状態に合わせて働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や、ペースを大事にしながらも、自然と共同生活が営めるように働きかけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	さりげなく本人の好みで身だしなみを整えられるよう支援している。また、本人の希望にて訪問美容や、馴染みの理容・美容院に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回程度、利用者の好みに応じた献立で、一緒に食材を購入する機会を設けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の状態を考慮しながら、希望に添った好みのものを日常生活に取り入れている。	○ 安全面を配慮しながら、希望である喫煙や飲酒をしている利用者がいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により、1人ひとりの排泄リズムを全職員が把握し、トイレの場所をわかり易く表示したり、さりげない支援に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にあわせ入浴できるよう、工夫している。また、やむを得ず希望に添えない場合は、状況を説明し納得して頂くよう努めている。	○	桧風呂があり、楽しみにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、個々の状態に合わせた対応にて、1日の生活リズム作りができるよう働きかけている。	○	家族、医師に相談し、薬の調節をすることにより改善みられる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活や余暇活動を通じて、個々に合わせた役割の提供をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員でもお小遣いとして預かったうえで、それ以外でも個々に合わせてご家族、本人と相談し、希望に添った金銭管理ができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者は天気の良い日は出来る限り、戸外での体操や、散歩、近くのお店で買い物ができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度は外出の機会をもうけている。また、職員の付き添いが無理な場合がある際は、ご家族にも協力を仰ぎ、出来る限り希望に添った支援ができるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、自由に電話をかけることができる。また、年賀状や、暑中見舞いなど通じて手紙を書く場の提供をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に決まりごとを設けずに、常識範囲での自由な面会ができるように配慮している。	○	本人の居室に希望があれば泊まる事ができる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアが当たり前となっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解しているが、利用者の安全を考え、ご家族了承のもと必要な場合は施錠している。	○	十分な見守りができる状況が作れるよう、職員を配置したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	キッチンとリビング、食堂が繋がっているため、見守りができる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を考慮し、職員の間で十分な検討をした上での管理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人ひとりの状態を把握し、起こりうる事故について、普段から会議などで話合う場を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練の際、応急処置などの訓練をしている。また、事故防止マニュアルを共有し、活用している。	○	実際に起こった際、不安があるので具体的に学ぶ場を設けたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力で、定期的に避難訓練(年2回)を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態を把握し、それについての対応策を職員間で話しあい、家族に連絡、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを実施し、少しでも変化がみられたら、申し送り、記録をにて情報を共有し、対応につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成している。また薬の変更があった場合は、随時更新し、変化などがあった際にはご家族、医師に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日余暇活動に体操を取り入れ適度な運動を促している。便秘ぎみの利用者については、徹底した排便チェックをもとに、ヨーグルトや水分摂取量を増やすなど工夫をし、やむを得ない場合は薬での調節を行い、状態の悪化を防ぐよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけを実施し、必要に応じて対応している。また、就寝時には入れ歯の管理をし、個々に応じた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	料理の内容は、栄養士により管理されている。また、一人ひとりの摂取量を記録し、把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを職員間で共有している。新しい情報などは常に報告があり、共有できる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理点検日誌、冷蔵庫清掃チェック表を随時つけているため、常に意識しながら管理に努めることができる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物全体的に植物が植えてあり、開放的な空間作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に落ちついた雰囲気つくりになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが各場所に設置してあり、自由に活用できるようになっている。	○	玄関前を喫煙場所と決め、いつでも喫煙できる環境になっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、本人が相談し、今まで使用していた家具や好みを活かした部屋作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや、温度調節は利用者の状態を考慮しながら職員が注意をはらい、こまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の衰えを考慮した、環境づくりが必要となってきた。	○	現在の状況にあったテーブルや椅子を購入予定である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗の要因を探り、工夫した対応で未然に防ぐことにより、一人ひとりが心地よく暮らせるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各部屋のベランダにはプランターを置き、季節の花を楽しむことが出来る。また、テラスにはいつもでられるようになっており、憩いの場となっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然の中にある環境を活かし、畑での野菜作りや花の栽培などの園芸活動に力を入れている。建物内には犬(ウェルシュコーギー)が飼われており、入居者皆さんの人気者になっている。